

札幌市立太平小学校の取組

1 道徳科の指導について（本教材の授業に特化して）

・授業づくりのポイント

児童は、「12 命の旅」（教科書・光村）の学習を通して、自然界で「命」が連続していることを理解している。そこから、命が大切だという思いを、より実生活で生きて働くものとするためには、これまでは気づかなかったような側面から命を捉え、自己の生き方を見つめ直す必要がある。

・多様な学習展開

命は、誕生から死に至るまでの過程、誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなどの側面から捉えることができる。このような多様な側面から命を捉えることが大切である。

・学習指導における配慮事項

本教材は、人間の命は、あらゆる命との関係や調和の中で存在し生かされていることが描かれている。「命のつながり」については、人間の命のみならず、自然界における命など、生きとし生けるもの全ての命を視野に入れて授業を展開する。

2 道徳科の評価について

・評価の工夫と留意点

①価値の自覚 ②多面的・多角的に考える ③自己を見つめる の3観点から、児童の学びの変容を見取っていく。本教材では、自分の経験や知識との関わりを通して、自分の生命を見つめ直そうとしている姿を（自己を見つめる）を大切にしてい

・校内で共通理解を図るための手だて

既習の積み上げを図る。具体例として、

- ⑫命がつなぐもの「命の旅」⇒⑪「海のゆりかご—アマモの再生」 D—自然愛護
⑮つながる命「命のつながり」⇒⑭「マザー＝テレサ」 D—畏敬の念
⑲かけがえのない命「おじいちゃんとの約束」⇒⑳「ぼくの名前呼んで」
C—家族愛